

令和元年度第4回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和元年7月30日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹，黒田 啓史，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川担当部長，濱口経営企画課長，
大島京北病院事務管理者・統括事務長，北川京北病院事務長

1 開会

2 議事・報告等

(1) 地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会結果報告について

資料1に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 財務内容の改善に関する事項について、「計画どおり進んでいる」と評価されているが，機構全体の資金繰りは厳しいと認識している。対策を考えているのか。
→ 収益改善に向けて取り組んでいる。医薬品については価格交渉を行うほか，診療材料については，共同購入を行う等の取組を実施している。
- 人件費の影響が大きい。働き方改革が叫ばれる中，医療レベルの水準を保ちながら，市立病院の役割をしっかりと果たしていただきたい。

(2) 地方独立行政法人京都市立病院機構の組織改正について

資料2に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 事務管理者・統括事務長の役割は。
→ 京北病院の在り方を検討するほか，市立病院との密な連携を担う。
- 診療部全体を統括する役職はないのか。
→ 統括部長は配置していない。副院長が対応している。

(3) 収益状況の報告

資料3に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 7月以降の収益の見込みは。
→ 暫定では，6月以上の収益を見込める。入院患者数も増加している。
- 4月・5月の利用率が悪かった原因はあるのか。
→ 大型連休の影響等で，新入院患者数が伸び悩んだほか，退院患者数が多かったことも影響している。
- 救急搬送数が増加している。
→ 救急の体制を強化した。各診療科が診療手順等を作成する等をして，あらゆる疾患に対応できる体制を整えているが，救急の専門医は他診療科医師と比較してもあらゆる疾患に柔軟に対応できるため，重宝される。救急専門医だけでなく，チーム一丸となって断らない救急を目指している。
- 救急車断りの背景も分析する必要があると思う。

(4) 訴訟案件について

資料4に基づき、長谷川部長から説明
議案のとおり承認された。

(5) 京都市立病院における緩和ケアの充実について

資料5に基づき、折戸次長から説明

3 閉会